

児童発達支援・放課後等デイサービス 「輝・エヌ・アール」グループスタッフ研修会



作業療法での実践に基づいた事例から支援の在り方を講演する岩永先生。

自閉症スペクトラムの子どもの 感覚と運動の問題



に関する過敏や鈍麻の対応、また当事者の視点で支援する重要性についてもご講演頂きました。

2時間の講演のあと、約1時間に涉り質疑応答を行いました。スタッフをはじめ、障害のある子どもを抱える父親・母親の方から感覚に関する質問や悩みなどがたくさん出ました。

岩永先生もその質問に対してひとつひとつ丁寧に時間をかけて答えられていました。

**支援者・保護者が
一体となった研修会**

12月14日は、さいたま市内の多目的ホールにて、当団体が運営する児童発達支援・放課後等デイサービス「輝・エヌ・アール・志木」『輝・エヌ・アール・さいたま』の合同スタッフ研修会を開催しました。

この研修会において、長崎大学大学院 准教授の岩永竜一郎先生にご登壇頂き『自閉症スペクトラムの子どもとの感覚と運動の問題』というテーマで講師を務めて頂きました。また、この研修会には、関東地区の作業療法士7名、特別支援学校の教員、そして日大松



岩永竜一郎先生

戸歯学部の特設歯科において障害者歯科に従事する伊藤政之医師、他1名もご参加頂きました。

その他、おやじりんくで普段共に活動している障害のある子どもを抱える父親たち15名も一緒に研修会へご参加頂きました。

研修会の講演内容は、自閉症特性の基本的なお話しから、岩永先生の作業療法での実践に基づいた事例からその対処方法、感覚



講演のあと、10分程度の時間を頂き、当団体代表理事の金子がマイクロブレイン社として研究開発に取り組んでいる、発達障害者の歯科治療の困難を軽減する支援機器「はつするでんたー」の開発に至った経緯や、日本障害者歯科学会総会で展示したこと、また医師だけでなく、教員等から学校での授業の教材



スィミー壁画プロジェクト —般社団法人アーツアライブさんとのコラボイベント



11月22日と12月20日の2回に涉り、さいたま市の工房館にて、一般社団法人アーツアライブの助成事業である「スィミー壁画プロジェクト」を行いました。

これには、児童発達支援放課後等デイサービス「輝・エヌ・アール・志木」と「輝・エヌ・アール・さいたま」に通所する児童たち延べ20名が参

加。アートのテストとして活躍する、池平徹兵さんが主体となり、このプロジェクトに参加した児童たちは、各々が表現するものを描いてもらいました。

そのひとつひとつの作品をパーツとして組み合わせ、池平さんの発想とひらめきで、壁に貼ってある大きなキャンバスに作品を貼っていきます。そこに新しいアーティストとしての表現を加え、子どもたちが描いたひとつひとつの小さな作品が組み合わせられ、大きな一つの作品に仕上がっていきます。

この2回に涉って描かれた作品を池平さんがアートリ工に持ち帰り、新たな発

想を加え、芸術的な作品が完成します。完成した作品は、品評会が行われ、参加した児童たちやその保護者に対して作品が披露され、作品に対する感想やその作品に対する思いを伝えてもらいます。

この一環したプログラムが「アート・コミュニケーションプログラム」として、作品を体感して表現してもらおうという事業として行いました。



スタッフと子どもたちでにぎわう会場。

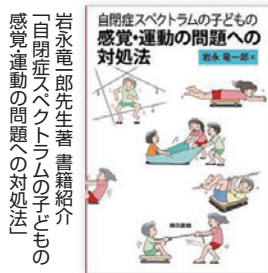
東京新聞で紹介されました！

で要望が強いことなどを紹介しました。

研修会終了後は、会場後方に設置した、はつするでんたー展示ブースで、参加者の方々にはつするでんたーを体験して頂きました。

10月31日付け東京新聞10面で「発達障害児と生きる父親たちの輪」というテーマで、NPO法人ファザリングジャパンのメイ

ビス「輝・エヌ・アール」の紹介。また当団体の設立の経緯から、支援活動の内容について紹介もされました。



岩永竜一郎先生著 書籍紹介
「自閉症スペクトラムの子どもの感覚・運動の問題への対処法」



10月31日付け東京新聞10面記事。

企業成長の原動力に 転換する

11月19日は、東京都内にて「一般社団法人企業アクセシビリティ・コンソーシアム(ACE)」が主催する、障がい者雇用の推進を図る「第2回 ACE フォーラム」が開催されました。

「障がいの雇用を福祉や社会貢献を目的としたものから「企業成長の原動力」に転換する」との理念を掲げ、日本IBMや日本GEE(ゼネラルエレクトロニクス)、KDDI株式会社などを中心に、一般社団法人企業アクセシビリティ・コンソーシアムは、昨年(2013年)に発足した団体です。

代表理事を務めるのは日本IBMの橋本孝之会長。第2回 ACE フォーラムでは、基調講演に「障がいの者千人雇用」に取り組む、岡山県総社市長の片岡聡二氏と、厚生労働事務次官の村木厚子氏が「障がいの雇用」

障がい者雇用の推進を図る 「第2回 ACE フォーラム」

右から山本博司参議院議員、総社市の片岡聡二市長、おやじりんく代表理事金子



現状と今後の動向」と題して各々30分間の講演。短時間ではありましたが、とても内容の濃い講演で、参加した約200名あまりの方も、その話に集中して拝聴しておりました。

その後は ACE 会員企業から障がいのある、社員16人(16社)の方々が職場での実績を報告。活躍事例紹介など行われました。

現在の ACE 参加企業はオムロン、富士ゼロックスなどを含め24社。橋本代表理事は「会員企業としての参画は、100社を目指している」と言われていました。

国会議員では、森まさこ元少子化担当大臣(障がい者担当大臣)、障がい者への支援や、雇用促進において活躍されており、当団体の活動を応援頂いている山本博司参議院議員も参加されました。

その後は、日本IBMの橋本会長、KDDIの小野寺会長、総社市の片岡市長の方々と交流をさせて頂き、これからの障がい者雇用の在り方等について意見交換を致しました。

障害のある子どもたちを父親から支援をしている当団体も、イベントでは参加者の方からいつも出てくる言葉は「親子(きご)」「我が子の社会進出(就労)」に関する悩みが多く、大半は就労についてです。

大手企業が24社も参加されている、この一般社団法人企業アクセシビリティ・コンソーシアムの、障害者への就労支援活動は、私たちの様な、子どもに障害を持つ親としてとても勇気づけられる活動です。今後も活動を応援してまいります。

ファザリング・ジャパン とのコラボレーション

9月28日は東京都内にて、NPO法人ファザリングジャパン、発達支援団体「core」、杉並区教育委員会が主催で開催された、メインマンPRJキックオフイベント「パパが子どもたちのメインマン(親友)になろう!」に参加させて頂きました。

このメインマンプロジェクトは、NPO法人ファザリング・ジャパンのプロジェクトリーダーである、橋さんが企画されたもので、発達障害児をもつパパたちを支援し、子どもとママが家族みんながもつと笑顔になつてほしい。そして、地域社会など広く一般に発達障害のことについて知識を深めてもらい、みんなでその子の成長を応援できるような社会を目指すプロジェクトです。

基調講演として、一般社団法人日本自閉症協会の山崎会長が講演。続いて当団体代表理事の金子が登場。母親の障害受容について、その時の父親の在り方について話を致しました。

発達障害支援シンポジウム

～パパが子どもたちの
"メインマン(親友)"になろう!～



第5回Leaf教育実践フォーラム テーマは「家族支援」

11月22日は東京都内にて、学習塾&幼児教室を展開するLeafが主催となった「教育実践フォーラム」第5回「家族支援」が開催され90名の方が参加。

イベント第一部は、基調講演として「発達障害のある子どもを持つ保護者への理解と連携」と題して90分間に渉り、鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学講座教授の井上雅彦先生が講演をされました。現在の小中学校での発達障害児童に対する支援の現状から、その家族に対する支援者の対応、地域性の問題や支援者と保護者の連携などについて発表。

第二部はパネルディスカッションが行われ、発達障がい親支援ハッピーサ

子ども・若者を理解するための講演会にて講演

9月13日、神奈川県横浜市にある、神奈川県立青少年センターにて、フリフリ・フェスタ2014と、子ども若者を理解するための講演会が行われました。

子ども若者を理解するための講演会では、当団体の代表理事の金子が「発達障害を考えるおやじパワーで支える」と題して講演を行いました。

講演には、多数の県幹部の方々や、学校の教員など、たくさんの方にお集まり頂きました。



登壇するおやじりんく代表理事金子。

今回の講演は、一人の父親として、家庭で子どもたちに対してどのように接しているのか? また息子の発達障害についてどのように取り組んでいるのか? とのひたひたのオヤジとしての振る舞いを中心に伝えました。

また支援に対する考え方も地域によつて大きな格差があることについても伝え、「父親として、他県と連携する距離的な望遠鏡視点が必要であり、オヤジたちは他県のオヤジたちと連携することが大切」と伝えました。



11月22日東京都内会場にて。左からおやじりんく代表理事金子、堀内祐子氏、井上雅彦先生。